

大学生からのメッセージ

「他の地域の行事に参加してみて」

石川県立大学 生物資源環境学部 2年 櫻井晴日

大学生になって2年間、私は色んなことを経験しました。大学生は単に勉強するだけでなく、様々な経験・体験を通して自分自身が成長できる時間だと感じています。自分の興味があることや自分に合っていることを見つけることが出来て、成長にも繋がっていると思います。また、授業やサークル活動を通して新しいことを経験し、今まで知らなかった世界に触れることもできました。高校生までは自分の住んでいる地域以外の地域の行事にはあまり参加したことが無かったですが、大学生になって参加する機会が増えました。特に石川県能登での体験が多く印象に残っています。

その中でも石川県七尾市の虫送りが強く印象に残っています。虫送りというのは、稲作の害虫を追い払うための儀式として古くから続いており、地域の農業文化や信仰と深く結びついている行事です。地元の住民たちにとって重要な行事であり、地域の連帯感を高める役割も果たしています。

一昨年6月、石川県七尾市中島町小牧地区の虫送りにサークルの皆と参加させていただきました。私が参加した小牧地区の虫送りは、田植えが終わった6月頃に、稲につく害虫をたいまつで追い払って豊作を祈願する伝統行事です。地域の人たちや大学生などが参加します。

昨年は、復旧の支援にあたっているボランティアなどおよそ80人が参加しました。私たちは集会所をお借りして泊まりで2日間小牧にいました。1日目に虫送りがありました。まずは地域の方々から虫送りの歴史などのお話を聞き、太鼓や鉦を打ち鳴らしたり、会話をするなどの交流をしました。虫送りで使うたいまつは、1mほどの竹の先にタオルを詰めて、藁を燃やした火でタオルに火をつけたものです。地域の方々に教えていただきながらたいまつを自分たちでついたり、火を起こすための藁の束ね方を学んだりと貴重な体験をしました。そのあと地域の方々と一緒に「泥虫や出てけ」とかけ声を出しながら、たいまつを掲げて農道を歩きました。薄暗い中たくさんのたいまつが輝いていてとても綺麗でした。また、虫送り以外にも地域の方々と一緒にご飯を食べたり、2日目には七尾湾で里海交流会(船釣りや穴釣り)を体験しました。

これらの行事に実際に関わったことや、自分の地元とは異なる文化を知ることができて、学びにもなり、新たな発見もたくさんありました。このような行事には初めて参加したので初めは緊張していましたが小牧の方々の温かさに触れることができ、楽しい時間を過ごすことができました。実際に参加してみて地域の行事は単なるものではなく、地域をつなぐもので、次に受け継いでいかなければならないといけないものだと思えて強く感じました。そして、このような行事を実際に体験することも人生で大事なことであると感じました。

今もまだ能登の地震災害からの復興活動は続いています。完全復興には時間はかかりますが、着実に進行中です。また能登のきれいな景色と地域の方々の笑顔が完全に戻ることを願っています。

□ 白水ため池(大分県 竹田市/豊後大野市)

「日本一美しいダム」として知られる、正式名称「白水溜池堰堤」は、大分県竹田市にある現役バリバリの農業用ダム。でも、ただのダムじゃないんです！その理由を3つ教えちゃいます。



①技術面

- 堤高14.1m、堤頂長87.26mという堂々たる規模を誇る重力式割石コンクリート石堤で、大分県農業土木技師・小野安夫氏が革新的な設計を実現し、1938年に完成しました。
- 地盤がとても脆い地質であったため、ダム本体は緩やかな曲線勾配、左岸側は階段状、右岸側は曲面状の溝の構造にして、流れ落ちる水の勢いを弱めることで地盤を守りました。

②意匠面

- 緩やかなカーブを描き壁面に沿って流れる水は、白いレースカーテンのような美しさです。
- 四季折々の表情も魅力で、新緑や紅葉の季節には周囲の自然と見事に調和した姿を見せてくれます。

③文化的価値

- 60万 m^3 もの水を貯めながら、美しい姿を85年以上も保ち続けているこの堰堤は、1999年には国の重要文化財第1号に指定されました。
- 現在も変わらぬ優美な姿で、竹田市の農業用水を支えています。



大分むぎ焼酎二階堂のCM舞台となり話題になりました。

これぞまさに、技術と美の融合！

日本の農業土木技術の歴史と地域の匠の技が生み出した、世界に誇るべき構造物なんです！ぜひ一度、足を運んで、その圧倒的な存在感と美しさを実際に体感してみてください。

周辺観光地 ・グルメ情報



岡崎城

難攻不落といわれた名城！瀧廉太郎が幼少期を過ごし、名曲「荒城の月」の構想を練った場所でも知られています。



長湯温泉


長湯温泉は地元では「日本一の炭酸泉」を宣言しており、河原にある「ガニ湯」は混浴の露天風呂で、多くの観光客が訪れる観光スポット。



頭料理

竹田に江戸時代から伝わる魚の頭を使った郷土料理。山で囲まれた竹田では貴重な魚料理だったことに由来します。

写真提供：竹田市観光ツーリズム協会

【情報提供】  NTCコンサルティング株式会社

農業土木技術—プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が、日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する『農業土木技術—プロの仕事』。今回は、「カエルの鳴き声をAIで聞き分けることができるのか？」に挑戦しましたので、概要をご紹介します。

1. 何でカエルの鳴き声なの？〔調査の目的〕

「田んぼ」では、田植えから梅雨の時期にかけて、いろんな声で鳴くカエルに出会えます。

この「田んぼ」を大きく平らにし、水路や農道も整備する工事(ほ場整備)を計画しています。

カエルたちの“すみか”がなくなってしまう！！

そこで、カエルの“すみか”を保全するために、どこに何ガエルがいるか、工事前の現状把握を目的として現地調査を行なう必要があります。

ダグググッ



トノサマガエル

ギューギュー



ナゴヤダルマガエル

クワックワッ



ニホンアマガエル

グエーグエー



ツチガエル

2. どうやって調べよう？〔調査の方法〕

これまで

カエルの専門家が夜中に田んぼの間を歩き、鳴き声を聞き分けて記録

人手がかかる！
調査ができる人が限られる！



今回調査

田んぼの中にマイクを設置し、夜間を通して鳴き声を録音

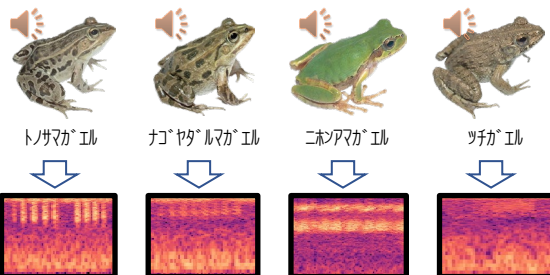
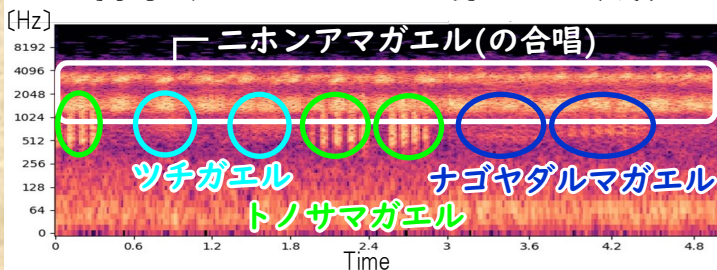
広い範囲で長時間できる！
けど、録音を聞かないといけない

音を可視化したら何かわかるかも…

3. この声は何ガエルかな？〔解析の方法〕

『生成AIを活用してPythonのコードを作成』→鳴き声の波形を短時間フーリエ変換
→スペクトル表示で可視化することができました！！

同時に、いろんなカエルが鳴いていて大変



よく見たら波形に特徴があった！！！！

4. 何ができたかな？〔まとめ・成果〕

【情報がたくさん集められる】 限られた人と時間の中で行っていた調査から広範囲・長時間の調査に転換できます。多くの有用な情報が得られるため、さまざまな角度からカエル(生き物)を守る方法を検討することができるようになります。

【アイデアを形に！】 アイデアは形にすることができます。生成AIやPythonなど学生時代に学んだ新しい技術を活用する場がどんどん広がっています。

■トピック:「三重県棚田サミット」-白米千枚田(能登)の被害及び復興状況の報告がありました-

三重県伊賀市において、「三重県棚田サミット」(主催:三重県)が開催されました。このサミットは、県内の棚田地域の関係者が一堂に会し、課題の共有や理解を深め合い、もって、山村文化の継承や山村地域の振興につながることを目的としています。県内の「つなぐ棚田遺産」の3つの棚田保全団体及び県、市町村の関係者、約50名が参加しました。伊賀市長、県農山漁村むらづくり課長の挨拶後に、当協会の中里良一理事長が「都市交流と大学生連携による持続可能な棚田保全と地域づくり」と題して基調講演を行いました。

講演内容

①中山間地域、棚田を取り巻く状況、②都市との交流人口、関係人口の推進、③持続可能な棚田保全方策、④「大学生サークルと農村マッチング事業」について。続いて、白米千枚田愛耕会(石川県輪島市)の堂下真紀子氏より「能登半島地震と能登豪雨による被害状況と復興について」と題して報告がありました。

愛耕会のみなさまは全員被害(家族を亡くされた方もおられます。)を受けられ(一時孤立集落となりました)、避難生活、仮設住宅に住まわれながら、千枚田の復旧作業に取り組まれています。2024年元旦、白米千枚田道の駅に約80名の観光客が孤立状態になりました。堂下氏ほか愛耕会のみなさまは、自らも被災されているにもかかわらず、危険状態にある道なき道(国道等が寸断され、車が通れない状態)を50分歩いて道の駅に行き、炊き出しをして、観光客に食事を提供されました。幸いプロパンガスと米(農家の強味)はあったそうです。水は湧き水を使用。数日後に観光客全員がヘリコプターで運ばれました。基調講演、堂下氏の報告後に全員で「つなぐ棚田遺産」である「西山の棚田」(伊賀市)を見学しました。

「西山の棚田」(97ha)は昭和28年に大雨による土砂流入、法面崩壊により約8割の農地が壊滅的な被害を受けました。地域のみなさまの大変なご苦労により復旧され、現在、見事に整備された農地となっています。棚田の見学後、「災害を受けた棚田の復旧、復興について」をテーマにパネルディスカッション(コーディネーター:中里理事長)が行われました。棚田の復旧において、どのような形状にするか議論になりました。「美しい景観のため小面積の曲線状(現状回復)にすべきだ」という意見と「担い手が少なくなる中、労働作業を軽減するため、機械で営農できるように農地をまとめて大区画するべきだ」という意見がありました。みなさまはどうお考えになるでしょうか。パネルディスカッション後に地域の婦人部が棚田米で作られた美味しいおにぎりをいただきました。当協会では、輪島市役所及び白米千枚田愛耕会と白米千枚田の復旧及び復旧後の棚田保全方策(誰がどのように棚田を保全していくのか等)について、応援できることがないか協議を行っていきます。

サミット会場



棚田の様子



「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

■「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

静岡大学 棚田研究会は、地元の方々やオーナーさんと一緒に、菊川市にある昔ながらの千框の棚田を 保全する活動を行っているサークルです。

特徴的な活動として「あぜ道アート」があります。通水した田んぼのあぜ道沿いに、火を灯したロウソクを1本1本手作業で刺していきます。夜になるとシンボルの梅の木がライトアップされ、息を呑むほどに美しく幻想的な景色が一面に広がります。外国の方も来られる人気のイベントです。



春～夏 春になると、代掻き、田植えをします。夏の間は、雑草の管理が特に大変ですが、昼ごはんの流しそうめんや、ご褒美のかき氷を楽しみに、一生懸命草刈りをします。田んぼではシレーゲルアオガエルや水生昆虫、水路では小魚が見られます。子供たちを集めて有識者による「生き物教室」も開かれます。収穫～冬 10月、半年間大切に育ててきた稲を収穫します。澄んだ青空の下に広がる、黄金色の稲穂の絨毯がとても美しいです。11月、収穫した稲は乾燥させた後、脱穀します。冬は、茶草場農法の体験や、しめ縄作り、そば打ち体験をします。自分で打ったそばが、お昼ご飯となります。



「農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324

Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。